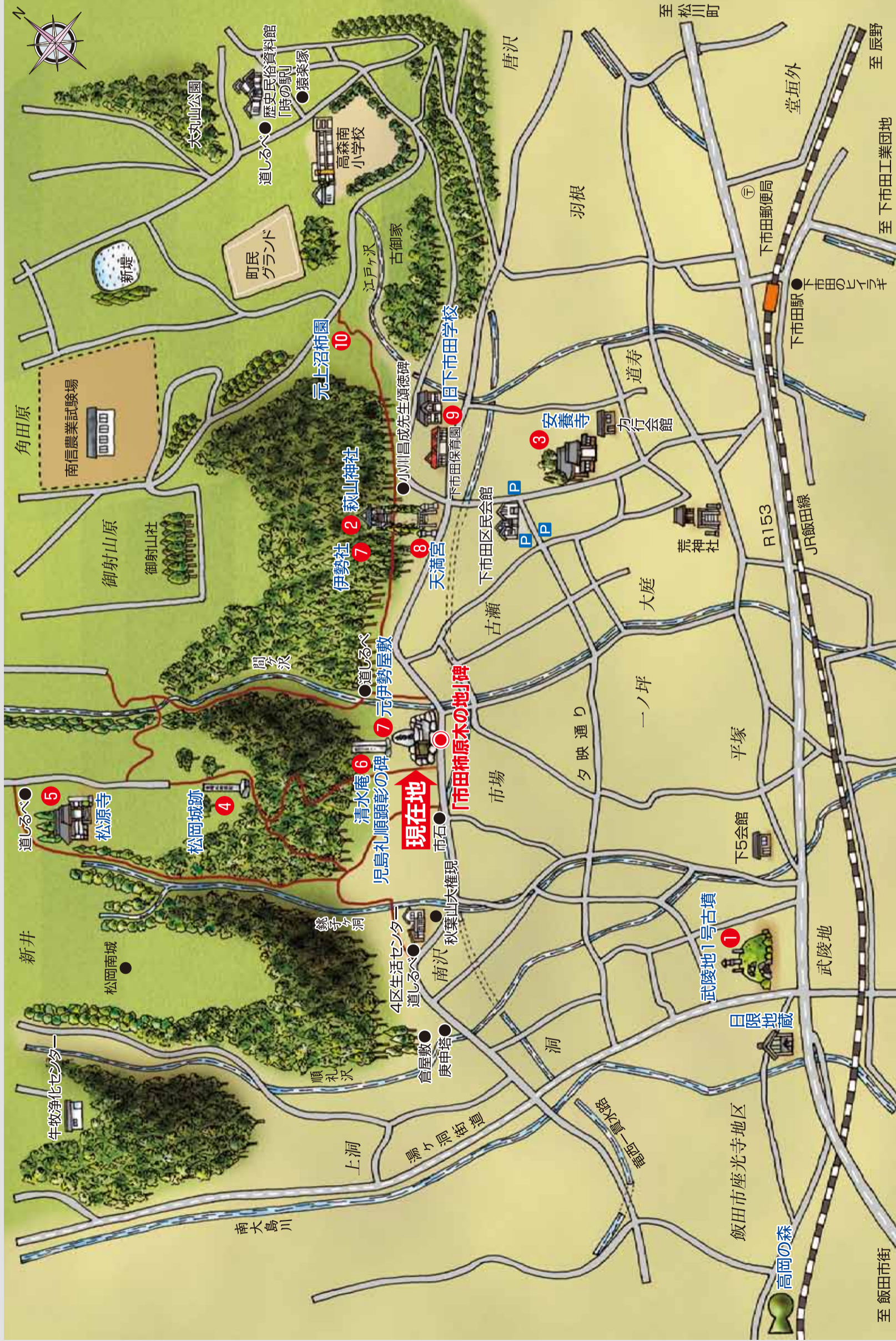


市田柿に関する歴史的なことがらと原木の地 周辺案内図



①	時期	西暦	和暦	ことがら
1	奈良時代	八世紀末	—	武陵地1号古墳に富本銭が副葬される
2	平安時代	一一八三年	寿永二年	松岡氏四代常刀、萩山神社を創建する
3	南北朝時代	一三三八年	延元三年	松岡氏九代伊予守貞景、安養寺を創建する
4	—	—	—	この頃 松岡城を築城する
5	室町時代	一五二三年	永正十年	松岡石衛門大夫貞正、牛牧山に松源寺を創建する
6	江時代中期	一六七五年	延享三年頃	間ヶ沢観音堂(清水庵)この頃開かれる

⑦	時期	西暦	和暦	ことがら
7	江戸時代後期	一六四一	文化年間	間ヶ沢に伊勢社を祀る、後に伊勢屋敷と呼ばれる
8	—	—	—	泰孫弘花葬閣
9	明治時代	一八八八年	明治二十年	見島礼順、伊勢屋敷に寺子屋を開く
10	—	—	—	上下市田学校を再建する
10	明治時代	一九〇七年	明治四十一年頃	上沼正雄寺山を開墾し柿苗三百本植える
10	大正時代	一九二二年	大正十年	下市田村年回りの柿を市田地と改称して柿出荷

時代	西暦
原始	300
古墳	400
飛鳥	500
奈良	600
平安	700
鎌倉	800
室町	900
戦国	1000
安土桃山	1100
江戸	1200
明治	1300
大正	1400
昭和	1500
平成	1600
現代	1700
現代	1800
現代	1900
現代	2000

1 武陵地1号古墳 高森町史跡 直径19m、高さ4mの円墳で、長さ8.6mの横穴式石室を備え、七世紀前半の古墳と推定される。墳丘上に秋葉大権現の石碑が祀られている。武具、馬具等と一緒に富本銭が発掘された。

2 萩山神社 高森町有形文化財 平安時代の末、寿永2年、松岡城主4代松岡常刀が諏訪明神を勧請して創建した。主祭神建御名方命を奉る本殿、八幡社、須彥鳴命を奉る荒神社の三殿がある。七一年一度、寅申年に御柱祭が行われる。

3 安養寺 臨済宗 本尊：阿彌陀如来 延元3年、松岡城主9代松岡貞景が禅道場として開善寺の古鐘明千禪師を開山に迎え創建した。貞景の子、貞政が亡父の三十三回忌法要に奉納した五部大經二百巻のうち梵網經が今に伝わる。

4 松岡城跡 高森町史跡 松岡氏の初祖、仙千代は松岡貞則を名乗り市田地頭に任じられ城を古城の地に構えた。南北朝時代に入り現在の松岡城の築城が始められた。段丘突端部を利用し、五つの曲輪を備えた壮大な城跡。

5 松源寺 臨済宗 本尊：釈迦牟尼仏 永正十年、松岡城主第12代松岡貞正が創建。開山は貞正の弟、文叔源禪師である。文叔は京都妙心寺の二十四世住持となり、遠州井伊谷龍潭寺の住持開山、松尾門の開山など務めた名僧。

6 清水庵境内 伊勢屋敷に住んでいた見島礼順は三州原藩の元藩士で漢学者であった。寺子屋を開いていた礼順は、実った柿を伊勢社に供えた後、寺子と一緒に焼いて食べた。その食べ方から「焼柿」と呼ばれ、接ぎ木で村中へ広がった。現在の「市田柿」の元と言われている。

7 伊勢社 間ヶ沢南の伊勢屋敷にあっての祠は現在、教師に対する謝恩の意を表して建立された。山神社の境内南側に移されている。

8 天満宮の碑 原島礼順の門弟が山神社の境内南側に建立されたものである。

9 旧下市田学校 高森町有形文化財 明治21年に完成した擬洋風建築の小学校舎。室棟造り2階建ての正面に唐破風屋根の玄関が付く。この玄関は宮大工として名声の高い坂田龍吉(通称木曾亀)の作で、下市田の村自慢であった。

10 市田柿原木の地 柿柿原木の地